



写真で振り返る50年

学長就任にあたって



北海道医療大学 学長 三国 久美

4月より、浅香正博学長の後任として北海道医療大学の学長に就任しました。私は薬学部、歯学部に通じて1993年に設置された看護福祉学部の開設時から、本学に勤務しています。はじめて大学教員として採用された入職当初は何もわからない状態でしたが、本学で出会った様々な教職員や関係者に支えられ、やりがいをもって教育や研究に取り組んできました。また、私は本学大学院看護福祉学研究科を修了しています。私にとって、本学は恩師や共に学んだ仲間との出会いの機会を与えてくれた大切な母校です。学長は大学がその教育目的を達成するうえで最終責任者に位置づけられます。このたび、教員としての自分を育ててくれた本学において、学長という任務を担うことに責任を感じるとともに、より魅力ある教育を提供するために何ができるかを思案しています。

今年は、本学の創立50周年という節目の年にあたり、記念事業が計画されています。これまで歴代の学長を中心とした諸先輩および教職員のご尽力により、この50年間で本学は北海道内でも有数の6学部9学科を擁する医療系総合大学となりました。本学の教員になり30年たちますが、何年たっても新入生が卒業するまでに知識や技術を修得してどんどん変化し、成長していく姿を目の当たりにして頼もしさを感じます。また、今まで本学では2万4千人を超える卒業生を輩出しており、国内外での様々な分野における卒業生の活躍は高く評価されています。そして、卒業生が生き生きと活躍している様子を知ることが私たちにとって、最もうれしく、誇りに思うことでもあります。

本学では、4年後の2028年に北広島市のFビレッジ内にキャンパスを増設する計画を進めています。Fビレッジはエスコンフィールドをはじめ、様々な施設が作られ、多くの人々が行きかう賑わいがあり、今後もさらなる発展が期待されます。当別キャンパスや札幌あいの里キャンパスでの充実した学修環境と同様に、新キャンパスでも学生の皆さんののびのびと勉学や学生会活動に取り組めるよう、私たち教職員みんなでサポートしていきます。

保健医療福祉分野に期待される役割は、時代の要請によって変わります。本学では多職種連携教育に取り組んできましたが、さらなる充実と体系化が求められています。また、現代において、欠くことのできないテクノロジーであるAIが急速に進歩し、人々の生活のみならず保健医療福祉分野の仕事に大きな影響を与えています。本学では、2021年からDX推進計画に沿い、データサイエンスに関する科目を配置しています。将来の予測が難しい現代において、主体的に考え、チームメンバーと協力し合い、課題の解決に向けて柔軟に対応できる人材を育てるために、大学にはどのような役割が求められているのかを考え、より質の高い教育や研究を進めていきます。加えて、地域貢献の取り組みについても、教職員や学生ができることを考え、効果的に提供するための組織的な体制を作りたいと考えています。

少子化がますます進行し、大学を取り巻く環境は厳しい中、北海道医療大学がこれから先も「選ばれる大学」として発展していくために力を尽くしたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

CONTENTS

学長就任にあたって	1
定年を迎える先生からのメッセージ	2
教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介	5
同窓会活動状況	6
創立50周年記念特別企画 第2弾 今後の医療大に期待すること	8
プロジェクト演習 看護福祉学部 福祉マネジメント学科3・4年次	10
卒業生訪問 [理学療法学科]	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	